

# Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



Photo : Central Park

## 《 Jazz for Central Park 》

この8月から息子が1年間の期限で海外に渡った。自分が初めて海外に出た時と同じ年齢ということで、感慨深いものがある。当時、自分は約40日間のアメリカ周一人旅をして来たが、その後大学卒業と同時にニューヨークに渡った。紆余曲折あって今に至っているが、息子にも楽しいことも辛いこともたくさん経験して欲しいと思っている。

自分がニューヨークで生活していた頃、楽しいことや辛いことがあったり、考え事をしたい時などに頻りに訪れていたのがセントラル・パークだった。春夏秋冬を問わず、朝だったり、日中だったり、夕方だったり、さすがに日が暮れてから訪れることはなかったが、セントラル・パークを散歩してアパートに戻る頃にはいつも癒され、気持ちがりセットされていた。

日本に帰国した今となっては遥か遠い場所になってしまったが、今でも思い出すことがよくある。夏になると日焼けをしにセントラル・パークを訪れ、W72丁目の入口から直ぐのストロベリー・フィールズ横に広がる芝生に寝転んで、ラジオから流れる音楽に耳を傾けながらセントラル・パーク上空をゆったりと流れる雲をボーッと眺めていたりしたが、あんなに幸せなひと時はなかった気がする。

自分にとってたくさんの思い出が詰まったセントラル・パークはジャズにも登場する。今回は曲名に“セントラル・パーク”が付いているジャズの名盤・名演を紹介したい。作曲したアーティスト達もそれぞれセントラル・パークに思い出や思い入れがあったのだろう。

ジョン・コルトレーンが1960年にレコーディングしたアルバム『コルトレーン・サウンド』の2曲目に収録されている「セントラル・パーク・ウエスト」。コルトレーンが哀愁漂うソプラノ・サクソで奏でる名バラードで、個人的にも大好きなナンバー。

ホレス・シルヴァーが1972年にレコーディングしたアルバム『イン・パースト・オブ・ザ・27th マン』の4曲目に収録されている「サマー・イン・セントラル・パーク」。3拍子の心地良い曲でホレスのピアノも素晴らしく夏のニューヨークが懐かしくなる1曲。

サド・ジョーンズ&メル・ルイスが1969年にレコーディングしたアルバム『セントラル・パーク・ノース』の6曲目に収録されている「セントラル・パーク・ノース」。2人の名手が率いるジャズ・オーケストラの壮大なサウンドと見事なアレンジが爽快な1曲。

ニーナ・シモンが1957年にレコーディングしたアルバム『リトル・ガール・ブルー』の11曲目に収録されている「セントラル・パーク・ブルース」。ニーナ・シモンがヴォーカルは取らず、ブルージーなピアノを披露しているスロー・ブルース・ナンバー。

モダン・ジャズ・カルテット (MJQ) が1974年にレコーディングしたアルバム『ラスト・コンサート』の2枚目の4曲目に収録されている「スケーティング・イン・セントラル・パーク」。タイトル通り優雅で心地良い雰囲気、心が癒されるナンバー。

チック・コリアが1978年にレコーディングしたアルバム『シークレット・エージェント』の9曲目に収録されている「セントラル・パーク」。チック・コリア率いるエレクトリック・バンドがノリノリ&白熱のプレイを披露するラテン・フュージョン・ナンバー。

アレサンドロ・ベルトツィが2007年にレコーディングしたアルバム『トーキン・バック』の6曲目に収録されている「セントラル・パーク・ストラット」。イタリア出身のサクソ奏者アレサンドロ・ベルトツィが力強く吹きまくるファンキーな1曲。